

7. 麻酔科 臨床研修プログラム

1. 研修目標

麻酔科での研修期間中は、指導医とともに麻酔管理を行い、麻酔の基礎的知識、術前評価、基本的麻酔法、モニタの取扱い・解析、全身管理、術後鎮痛法などを習得する。麻酔科研修では、将来どの科の医師になっても役に立つように、患者の急変時には、確実に気道確保、人工呼吸ができ、二次救命処置が的確に行える知識と技術を身につけることも目的とする。

2. 研修期間 4 週～44 週

3. プログラム指導者と参加施設

プログラム指導者 麻酔科 溝上 真樹
基幹病院 中部国際医療センター

4. 到達目標

- 1) 術前回診と術前評価
 - ・ 患者の全身状態の把握
 - ・ 術前検査の理解
 - ・ 麻酔前投薬の理解と実際
 - ・ 麻酔法の選択と術中麻酔管理計画
- 2) 麻酔器、必須麻酔器具の理解
 - ・ 麻酔器、麻酔器具の準備と点検
 - ・ 麻酔器の原理と正確な取扱い
- 3) 基本的手技
 - ・ 静脈路の確保と輸液
 - ・ 静脈採血
 - ・ 動脈採血と動脈血ガス分析の手技
 - ・ 輸血
 - ・ 麻酔記録の記載
- 4) モニタ
 - ・ 非観血的血圧測定
 - ・ 心電図
 - ・ パルスオキシメータ
 - ・ カプノメータ
 - ・ 吸入麻酔ガス濃度測定
 - ・ 動脈ラインの確保、観血的動脈圧測定
 - ・ 中心静脈穿刺、中心静脈圧測定
- 5) 全身麻酔
 - ・ マスクによる気道確保
 - ・ 気管挿管、ラリンジアルマスク挿入
 - ・ 人工呼吸
 - ・ 全身麻酔薬の理解
 - ・ 筋弛緩薬の理解と使用法

- ・ 術中の呼吸、循環管理
- 6) 脊髄くも膜下麻酔
 - ・ 脊髄くも膜下麻酔の原理
 - ・ 局所麻酔薬の理解
 - ・ 合併症と対策
 - ・ 脊髄くも膜下麻酔の実技
- 7) 術後鎮痛
 - ・ 硬膜外持続鎮痛
- 8) 選択研修では、重症患者や特殊な疾患を持つ患者の麻酔管理、心臓麻酔、小児麻酔、産科麻酔などの専門麻酔管理、ペインクリニックにおける慢性疼痛管理を習得する。(2年次)

5. 指導体制

研修医は、常に指導医のもとに行動することを原則とする。特に危険を伴うと考えられる検査、処置、および手術は担当指導医の看視下で行う。

6. 方略

1. 指導医とともに術前回診を行い、患者の全身状態の把握、術前検査の理解、麻酔前投薬の理解と実際、麻酔法の選択と術中麻酔管理計画を学ぶ。
2. 麻酔器、麻酔器具の準備と点検、麻酔器の原理と正確な取扱いを習得する。
3. 静脈路の確保と輸液、静脈採血、動脈採血と動脈血ガス分析の手技、輸血、麻酔記録の記載を習得する。
4. 非観血的血圧測定、心電図、パルスオキシメータ、カブノメータ、吸入麻酔ガス濃度測定、動脈ラインの確保、観血的動脈圧測定、中心静脈穿刺、中心静脈圧測定の原理と実際を学ぶ。
5. マスクによる気道確保、気管挿管、ラリンジアルマスク挿入、人工呼吸、全身麻酔薬の理解、筋弛緩薬の理解と使用法、術中の呼吸・循環管理を習得する。
6. 脊髄くも膜下麻酔の原理、局所麻酔薬の理解、合併症と対策、脊髄くも膜下麻酔の実技を学ぶ。
7. 硬膜外持続鎮痛の原理と実際を学ぶ。
8. 患者の急変時には、確実に気道確保、人工呼吸ができ、二次救命処置が的確に行える知識と技術を身につける。
9. ペインクリニック外来に同席し、疼痛管理について学ぶ。

7. 評価

1. 指導医は、日々の麻酔管理、手技の実施状況、術前回診での発表、カンファレンスでの発言などを通して、研修医の到達度を随時評価し、フィードバックを行う。
2. 研修期間終了時に、到達目標の達成度を評価シートに基づき総合的に評価する。評価項目には、知識、技能、態度、責任感、コミュニケーション能力などが含まれる。
3. 研修医は、定期的に自己評価を行い、指導医との面談を通じて自身の課題を認識し、改善に努める。

8. 週間スケジュール

	月	火	水	木	金
午前	麻酔	麻酔	麻酔	麻酔	術前診察
午後	麻酔	麻酔	麻酔	麻酔	麻酔